

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



Plan International (イギリス) 事務所訪問

英 国NGO連携調査団(JICAとネットワークNGO3団体 計6名)が今年3月に派遣され、戸村京子理事・事務局長が参加しました。

450団体以上の会員を持つ英国最大のネットワークNGO・BONDなどのNGOやDFID(英国国際開発庁)を訪問して意見を交わしました。BONDの「ANNUAL CONFERENCE & EXHIBITION 2017」の2日間の会議では各国からの参加者同士が、多くのセッションに参加し、スポンサー企業等のブース出展も多彩で、活発に交流していました。



Bond Annual Conference & Exhibition 2017

CONTENTS

特集

意外と知らない ネットワークNGOの役割

NGOトーク

コミュニティで困っている仲間を助け合いたい

ピンブラザーホッドトーカイ ジャパン 代表 エノグエヴァ プリンス・ユージン ノサさん & (特活)名古屋NGOセンター 理事 丹羽 輝明

意外と
知らない

ネットワークNGOの役割



名古屋NGOセンター(以下、センター)は、Nたま講座(NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ)やスタディツアー合同説明会など、市民向けに活動している以外にも、中間支援団体として様々な働きをしています。しかし、具体的に何をしているのかあまり知られていないのが現状です。それゆえ、ネットワークNGOは、現地で活動しているNGOに比べると会費や寄付が集まりにくく、財政・運営面で安定しません。全国的にネットワークNGOが縮小しているいま、その役割を伝えたい。

ぜひ知って欲しいセンターの活動を分野ごとに紹介します。

ネットワーキング

NGOと人々、NGOと他セクター、
NGOとNGOをつないでいます。

各NGOが主催するスタディツアーの合同説明会を開き、国際協力やボランティアのはじめの一歩を踏み出すきっかけづくりを行っています。

また、企業とNGOの連携促進のための勉強会を行うなど、お互いの「顔の見える対等な関係性」を大切にしながら、企業とNGOの双方の立場やビジョン、現状を知り合う機会を設け、連携のスタートラインに立つための情報を提供することを目的として、シンポジウムや勉強会を開催しています。

さらに、中部地域のNGOどうしが活動上での悩みを話し、参加者同士のつながりを深め、お互いの活動を支えることも大きな目的の勉強会の呼びかけを行っています。



新しい出会いのある
NGOスタディツアー合同説明会

コンサルティング

NGOに関する相談、質問への対応を
行っています。

外務省よりNGO活動環境整備支援事業の一環である「NGO相談員」を受託しています。相談案件は年900件以上!事務所で直接受け付ける他、様々なイベントに出張し、学生や会社員からのボランティア・就職先についての相談や、NGO関係者からの組織運営についての相談などに答えています。相談員を受託している認定NPO法人アイキャンと共同で中部・北陸の8県を担当し、全県をカバーできるよう奮闘しています。昨年は福井県の福井市総合ボランティアセンターと共同でNGO初心者向けのイベントを開催しました。



NGO相談員 出張中

情報収集・発信

地域のNGOの生きた情報を集めて
人々に伝えています。

ホームページやメルマガ、チラシの配布により加盟NGOのイベント情報を発信しています。「名古屋NGO」と検索するとトップに出てくる名古屋NGOセンター。加盟NGOがボランティアを集めるツールに利用するなど、多くの市民がNGOに深く関わるきっかけを作っています。これらの情報はFacebookやTwitterで随時発信しています。ぜひフォローして、気になる情報をキャッチしてください。

また、この『さんぐりあ』も情報収集・発信の一つ。会議は1回の発行につき4回行うのですが、毎回各編集委員から新しい情報が溢れ出てとても盛り上がります。その中で読者は何を知りたいのか、かなり頭を悩ませています。



Facebook更新中。ぜひ「いいね!」を

調査・研究

地域や世界の動きをモニターし、発掘した情報を整理、分析してNGO活動に役立てる活動を行います。

2012年度には「地域の国際協力NGOの能力強化」について、東日本大震災／福島原発事故被災地へ支援活動を行ったかどうか、その活動地や支援内容と問題点、また、自ら被災した場合の団体内での具体的な備えや、支援する立場となった場合の支援体制の可能性などを調査しました。

2014年度には「持続可能な開発のための教育(ESD)における国際協力NGOの役割」について調査し、NGOの特色に合わせたサポートの実施が必要であることがわかりました。「参加型のノウハウ、教材の作成、経験共有の場の設定」「活動の好事例の情報発信を支援」などの具体例を挙げました。



ESDユネスコ世界会議の併設イベントでのワークショップ



市民の伊勢志摩サミットでも政策提言

政策提言

政治や行政の場に、弱い立場におかれている人々を始め一般の人々、NGOの声を届け、あらゆる人々の声が政策決定に活かされるよう政策提言活動を行います。

定期的に外務省やJICAと協議会を開き、中部地域のNGOの近況報告や意見の発信をしています。外務省とのODA政策協議会では市民社会スペースが脅かされている問題など、NGO連携推進委員会では外務省事業制度の柔軟な運用などについて話し合っています。JICA中部との協議会ではJICAの草の根技術協力の説明を受けたり、中部地域のNGOの取り組みを紹介し、JICAとの協議会ではJICAとNGOの連携でより効果の高い開発協力プログラムなどについて検討し、全国で展開するよう取り組んでいます。

また、NGOの立場から様々な声明をだしています。例えば、特定秘密保護法が及ぼす影響や問題に対応し、社会に発信していくために結成された、国際協力NGOの「秘密保護法NGOアクションネットワーク」に参画しています。

国際理解・開発教育

地球規模の課題と私たちの暮らしとの関係を学び、行動に起こすきっかけを作っています。

地球規模の視野で考え、様々な課題を自らの問題として取り組む人材を育成するために、国際理解・開発教育委員会(通称:Fカフェ)を設置し、国際理解・開発教育の「実践」と「担い手の育成」を行っています。2016年度は、実践の場として「ESD入門講座」、担い手育成として「ファシリテーション講座」等を開催しました。ファシリテーション講座には、さらなるスキルアップをめざしてNGO・NPOや社会福祉協議会の職員、教員など多くの方が参加しています。参加者は講座での学びを地域や職場などで実践し、ファシリテーターとして活躍しています。

また、学校・大学・団体からの講師依頼に対して、ファシリテーターの派遣を行っています。



ワークに夢中の参加者たち



Nたまの高山研修で地域住民と話す参加者

人材・活動育成

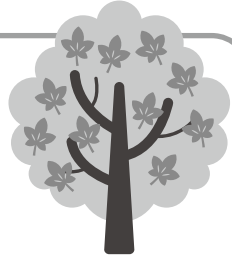
地域に眠る潜在的な力に働きかけ、NGO活動を生み出し、育んでいます。

はじめの一歩として「国際協力カレッジ」、さらに深く知りたい・関わりたい方向けにNたまを開催しています。また、インターンシップの受け入れを行い、NGOでの実務経験の機会を提供しています。

JICAと協働でNGOの組織強化のための研修を企画しています。また、宗教法人真如苑からの寄付により「東海地域NGO活動助成金」を実施しています。2016年度は公募により14団体から応募があり、外部有識者等による選考委員会での厳正なる審査の結果、6団体に対して合計100万円の助成をしました。

興味を持った活動はありましたか? 実際に参加することができる活動もあります。また、市民の声を届けるこれらの活動を続けるためにはみなさま一人ひとりの支えが必要です。センターでは賛助会員を募集しています。また、常に寄付を受け付けています。皆様からの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

(担当:高橋)



全国に10団体ほど存在するネットワークNGO。

その中でも名古屋NGOセンターと同時期に設立された2つのネットワークNGOを紹介します。

認定NPO法人 国際協力NGOセンター (JANIC)



JANICは東京都新宿区に事務所を置き1987年に設立された、日本最大の国際協力NGOネットワークです。正会員110団体の中には「国境なき医師団日本」など知名度の高い大規模な団体が多く存在します。また、68の団体協力会員にはトヨタ財団、日本ユネスコ協会、日本ユニセフ協会が名を連ね、企業協力会員の40社はほとんどが東証一部上場企業です。

JANICは活動の軸足を「SDGs推進プログラム」に移しており、企業、労働組合、自治体等の他セクターとの連携事業でもSDGs啓発メニューを提供しています。外務省やJICAへの政策提言活動でもSDGsの目標16「自由権の保障」及び目標17の「NGO/CSO(市民社会組織)の主体性を活かした他セクターとの対等なパートナーシップ」に重点を置いています。

2016年4月をもって情報誌「シナジー」を廃刊し、現在の広報活動はWebサイトとSNSに切り替えています。13名のスタッフのもと、主に学生のインターンが5名、ボランティア4名が活動を担っています。

(担当:内藤)

(特活)関西NGO協議会



JANICさんや名古屋NGOセンターとは違い、センターにしていなのが関西NGO協議会の特徴です。協議会というネットワークにこだわるのか、小さなNGOを支援や育成をしていくのか議論はあるのですが、34の団体が加盟する協議会というスタンスを継続しています。ご存じのように委託事業もしていますが、

現在、協議会ならではのネットワークを生かした2つの自主事業に取り組んでいます。ひとつめがNGOと教育機関とのネットワークを生かした「ワン・ワールド・フェスティバルfor Youth~高校生のための国際交流・国際協力EXPO~」というイベントです。若い世代と関西地域のNGOをつなぎ、高校生たちが将来企業や行政に入った時にNGOと良好な関係を築けるように、高校42校、NGO29団体などが活動報告やブース出展を行い、延べ6,000人の来場がありました。

もう一つが「かんさいCSネットワークフォーラム」です。企業とNGOとの連携をめざした主に関西地区の中堅企業の方むけのフォーラムで、講演会・事例紹介・交流会を行いました。フィランソロピーの関心がある企業が多いものの、地域とのつながりに目が向いてしまい、なかなか国際協力への連携は難しいのですが、このフォーラムをきっかけにつなぎを持ちたいと思っています。

(担当:丹羽)

他セクターへの突破力を活かす

静岡文化芸術大学 教授/元JANIC事務局長 **下澤 嶽さん**

日本で活動するネットワーク組織を大まかに分類すると次の4つになると思う。「目的達成・解散型」「同業者・総意型」「リーダー・牽引型」「行政サービス・調整型」である。私は、JANICや名古屋NGOセンターは「同業者・総意型」にあたると思っている。同業者の総意に基づく民主的組織という意味で理想的で、他セクター(例えば企業や行政など)の安心できるプロトコル(窓口)になることが容易だ。片方で、多様な会員ニーズに応えるために活動が煩雑になる傾向があり、参加メンバーの意識もまちまちで組織の志向性も分散しやすいリスクもある。構成メンバーに財力があればいいのだが、NGOの場合は経営資源も限られ、ネットワーク組織の経営も非常に難しい。ややもすると「行政サービス・調整型」に比重が傾くことも充分あり得る。

このタイプのネットワーク組織がもし長期的に低迷するようなことがあるとすれば、構成メンバーが真剣に求めるニーズに十分対応していないか、独善的なリーダーが運営の中心にいるかどちらかではないだろうか。前者だとすれば、多様化してしまったプログラムを思い切って整理し、参加意識が明確なメンバーを中心に、他セクターへの突破力を前面に出した活動に特化することが必要ではないだろうか。



加盟団体からみて名古屋NGOセンターはどのような存在なのでしょうか。
2つの団体からお話をうかがいました。

(公財)アジア保健研修所(AHI)

はやし
事務局長 林 かくみさん

AHIは、アジア各国のNGOワーカーの育成を通じて、草の根の人たちの健康と自立をめざしています。そのためには多くの取り組みが必要ですが、私たちができることには当然限りがありますし、他団体と協力して行うことがふさわしいものもあるでしょう。

政府やJICA等、国際協力の関係機関への働きかけや、広く市民の方たちの関心を喚起することなどが挙げられます。自らのミッションに基づき、名古屋NGOセンターに関わっていると言えます。特定の地域や分野の情報を他の団体から教えていただいたり、研修や会合に参加し、自分の団体や活動を見直す機会が持てることも重要です。センターは、政策提言、他の団体との交流・連携、また広報の面から重要な存在です。そしてネットワークNGO

は自発的であるべきです。AHIは地元の日進市で中間支援業務を経験したことがあるので共感するのですが、中間支援的な役割は難しさもあります。それでも常に何かを発信していく存在であってほしいですね。NGOが社会の大切な一員と認められるように力を合わせていければと思います。

(担当:桜井)



(特活)ル・スリール・ジャポン

いしだ じゅんや
理事長 石田 純哉さん

ブルキナファソで学びの場の環境を向上しようと、青年海外協力隊経験者が中心となり、2015年に設立しました。団体を運営するにあたって、理念だけではなく「資金」に対する意識も持たなければいけないという思いがあり、センター主催のファンドレイジング研修に参加しました。設立当初は手探り状態だったこともあり、提出書類の内容の確認や効率的な手続き手順などを教えてもらうなど、さまざまな相談にもっていただきました。

ボランティアの積極的な参加も運営の鍵になることから、法人格取得前にセンターの薦めで国際協力カレッジに出展できたことも大きなことでした。加盟団体として、情報ひろばやメルマガでボランティア募集を呼びかけてくださるのはありがたいです。また、他の加盟団体の方からいろいろな経験を聞かせていただいたり、共有できることが大きなメリットだと考えます。

中間支援組織としては、仕事としての非営利法人組織のありかたを周知する先導役として、様々な団体の思想、信念に対して広く寛容であってほしいと思います。多くの団体と共同で取り組むこと



右端が石田さん

により、ネットワーク型のNGOだからこそその議論を活かして、地域や行政などの意識変容を促し、変化を生み出す可能性も高いと感じます。地域の市民活動を醸成する基盤としてセンターは今後も必要となるのではないのでしょうか。

(担当:貝谷)

ネットワークNGOの在り方を模索中

とむら きょうこ
(特活)名古屋NGOセンター 理事・事務局長 戸村 京子

私たちNGOを取り巻く環境や社会の状況は、国内外において大きく変化してきており、センターが果たす役割を中長期的視点で絞り込むことが必要となってきました。この数年、これまで頼ってきた助成金や委託事業は縮小化し、財政・運営面で安定しません。加盟団体には、長い活動歴をもつ団体から最近設立された団体もあります。そのような中で、私たちは何を期待され、何が行えていて、行えていないものは何なのか、自問しています。

英国NGO連携調査団の一員として訪問したネットワークNGO・Bondでは、450の会員団体が「政策提言の能力開発」、「子どもの人権」、「開発と環境」といった幅広いテーマで、自主的に学び合うオンラインの仕組みがあります。Bondも複数のネットワークNGOのメンバーであり、ネットワークは広く張り巡らされています。またNGOが政府機関や企業との連携にSDGsを「共

通言語」として活用するなど、学ぶところが多くありました。

すでにご報告しているとおり、昨年度からセンターの未来について、ボランティアや会員の皆さん、理事や職員で共に考え、議論してきました。現在も理事や職員でその議論を継続しています。残念ながら、昨年度は2004年以来12年ぶりに赤字決算(約500万)となりました。ビジョン・ミッションを明確にして事業を見直し、財政と実施体制とのバランスのとれた組織や事業のあり方を再構築したいと考えています。



NGOトーク
理事が聞く

第51回

コミュニティで困っている 仲間を助け合いたい

ビンブラザーホッド トーカイ ジャパン 代表 エノグエヴァ プリンス・ユージン ノサさん & (特活)名古屋NGOセンター 理事 丹羽 輝明

誰かが困っていたら 助け合う

丹羽 ビニンはどのあたりにあるのですか。

ユージン ノサ ナイジェリアの南部にビニン(Benin)という都市があります。そのビニンを含むエド州から、愛知県近辺に来て住んでいるメンバーとその家族の団体です。

丹羽 エド州(Edo State)という州だけで、こんなに多くの方が東海地方に住んでいるのですね、驚きました。

ユージン ノサ 月1回こうして集まって、近況報告などを行っています。他にはバーベキューやクリスマスパーティーで家族ぐるみで親睦を深めています。

丹羽 ご家族というと、

ユージン ノサ みなさん日本に来て何十年というメンバーばかりです。だいたい日本人の女性と結婚して、子どもも成人したり大学生になったり、もうすぐ孫

ができる人もいます。

丹羽 どのような活動をしているのですか。

ユージン ノサ ナイジェリアは日本と比べたらまだまだ貧しい人がたくさんいます。日本で少しずつでもお金を集めて助けたいと思っています。まだ始めたばかりですが、クリスマスパーティーで寄付を集めて、たまに服などを送っています。

丹羽 コミュニティの中で困っている人を助け合うというのが、ビンブラザーホッドさんの一番大切にしているところなのですね。

ユージン ノサ 例えば、日本人なら亡くなったら火葬されてお墓に入りますが、私たちは死んだら燃やされずに飛行機でナイジェリアに帰りたいのです。でもそれにはお金がかかります。また、誰かが



病気になったりとか、大きいビジネスをするとか、困ったら話し合います。少し前にも、東京にいる私が知らないナイジェリアの方が治すのに2,500万円もかかる病気になったと連絡があり、いくらだそうかという話し合いをしました。また年金や保険に加入することを仲間呼びかけています。

ナイジェリア、ベニンについて



あまりなじみがないナイジェリアやベニンについて調べてみました。

2015年の人口は1億8200万人(世界第7位)。1990年は約9,000万人だったので25年間で2倍に増加しています。国連の推計によると2050年には約3.9億人になる見込みです。食料を確保するための農業技術の向上が不可欠ですね。

名目GDPは約4,000億USドル。日本の1/12しかありませんが、この15年間で6倍になるなどめざましい経済発展を遂げています。しかし、この富は一部の富裕層にとどまり、国民の半数以上が年間収入500ドル未満の貧困ライン以下の生活をしています。

約250の民族・言語があり、北部はイスラム教、南部はキリスト教を信仰しています。

エド州の人口は350万人。州都のビニン市は人口110万人(国内9番目)の地方都市です。



東海地方には、ブラジルや中国、韓国以外にも多くの外国人の方が暮らしています。昨年、名古屋NGOセンターに加盟したベニンブラザーホッドトーカイ ジャパンさんもそのひとつです。

右: エノグエヴァ プリンス・ユージン ノサさん

左: 丹羽 輝明

日本の人に伝えたいこと

丹羽 日本にきて驚いたこと、ナイジェリアとココが違う!というところはありませんか。

ユージン ノサ 安全と平和ですね。世界のどこの国よりも安全だと思います。夜一人で出歩いて大丈夫です。日本人はこれが当たり前だと思っているだろうけれど、これは全然当たり前じゃありません。また、服とかまだ着れるのに簡単に捨ててしまうことにも驚きました。もったいないですね。

丹羽 逆に困ったことはありますか。

ユージン ノサ 近所づきあいが難しいですね。長く暮らしていても、なかなか挨拶してもらえないのが寂しいです。

丹羽 確かに日本人は、「外国人」というだけで苦手意識が出て、なかなか声がかけれなかったりしますね。日本人

に特に伝えたいことはありますか。

ユージン ノサ 黒人という悪いイメージがあるみたいです。確かに悪いことをする人もいるかもしれませんが、どんな国でもいい人もいますし悪い人もいます。でも私たちのようにきちんと仕事をして家族を大事にしている人もいます。

農業の支援をしたい

ユージン ノサ 日本は工業は進んでいます。農業の技術もとても進んでいます。その技術をナイジェリアに伝えたいと思っています。

丹羽 ナイジェリアの農業はどのような状況なのですか。

ユージン ノサ ヤマイモ、ジャガイモ、トウモロコシが多いですね。コメは生産量が少なく台湾から輸入しています。

丹羽 コメは輸入するほど需要がある

のですね。

ユージン ノサ 日本は平地は市街地と農地でびっしり使われていますが、ナイジェリアは使われていない土地がたくさんあります。日本の技術で農地を作りたいですね。ベニン市に農業者を育てるためのコミュニティセンターを作ることを計画しています。そこに日本から農業機械を送りたいです。また私たちは農業経験者はいないので、ベニン市で日本の農業を指導してくれる方を募集しています。

丹羽 この「さんぐりあ」を見て、興味を示してくれる方がいるといいですね。

ユージン ノサ 他にもトマトの栽培にも興味があります。ナイジェリアでもトマトはたくさん生産して消費されているのですが、日本ではビニルハウスなどで非常に多く収穫しているのに驚きました。

丹羽 ありがとうございます。

(記録:丹羽)

月1回のミーティング



対談を終えて・・・

メンバーの一人が経営している栄のバーLINKS BARでの月1回のミーティングにおじゃまをしてお話をうかがいました。キリスト教のお祈りの後、ナイジェリアの公用語である英語、エド州で使われているエド語、そして日本語が飛びかうながら、真剣にお話をさせていただきました。

取材したときは、ちょうど世界陸上選手権でサニブラウン選手(父:ガーナ人、母:日本人)が100m走や200m走で活躍していました。ユージン ノサさんたちの子や孫の世代には、どんな社会になっているのか思いを馳せながら取材をしました。

団体概要

ベニンブラザーホッド
トーカイ ジャパン

〒474-0071 愛知県大府市梶田町3丁目143-2 県営梶田住宅2-103
TEL : 080-9494-0729 E-MAIL: beninbrotherhoodjp@gmail.com
連絡担当者: エノグエヴァ プリンス・ユージン ノサ

N た ま の い ま

No.37



もり ひろあき
Nたま14期生 森 浩彰さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てる、コミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002年～2016年度までの14回で（2004年度はお休み）、研修を受けた方は204名。このうち、のべ116名のOB・OGがNGO・NPOスタッフの担い手として羽ばたきました。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？第37回はNたま14期生、森 浩彰さんにお話を伺いました。

仕事は順風。一転、気になっていた別の世界へ

■Nたまを受講したきっかけは？

昨年までIT系の企業に勤めていました。そこでは経理を経て、経営企画の部署に所属し、予算管理や能力開発などにも携わっていました。7年勤め自身の担当は順調に起動に乗り、仕事が回り始めている一方で、少し時間や気持ちに余裕ができました。その頃、このまま仕事を続けていて良いのだろうか？疑問を持ち、他の世界も知ってみたいと思い始め、以前から興味があったNGOやNPOについて調べてみました。

そこで出会ったのがNたま受講の案内です。会社勤めをしながらでも受講することができるを知り、すぐに応募しました。

■Nたまの印象は？

Nたまカリキュラムでの実践を通して感じたのは、今まで会社で培ってきた企画や経営の仕事が、活動に役立ち、また重なる部分もあったということ。またそこでの活動経験が自分のこれからの人生に有意になることも実感しました。受講して良かったと思います。

またNたまではいろいろな分野の紹介があります。結果的には国内分野の方でより興味が出て、ビジョンも広がりました。カリキュラムも半ばを過ぎ、地域活動するNPO/NGOを訪問。地域に貢献したいとまちづくりに取り組んでいる

みなさんの活動現場を訪れてお話を伺い、仲間と合宿をした夜に自然とそれぞれの夢を語りあいました。人に話すことで具体的な将来設計も見えてきました。

■「こどもNPO」との出会い

2017年1月には会社に退職を伝え、2月にNたま修了式。その後の働き口をネット検索、応募する中で、こどもNPOでの求人を知りました。早速面談し、直接理事の方もお話をさせて頂くことで、共感することが多くありました。特にNたまを通じて興味を得た分野に携わることができると思いました。

■「こどもNPO」で取り組んでいること

現在はこどもNPOの会計業務を中

心とした事務の仕事をしています。緑区の事務所に週4日。新しく始まった事業等で活気づいている中ですので、今までの仕事の経験を大いに生かすべく、裏方で支えていきたいと思っています。

こどもNPOは、森さんも通う緑区の事務所の他、緑区の児童館、栄のこども子育て支援センター、中川区の児童館と主に4つの拠点を中心に活動している。さて森さん、緑の下の力持ちがこれから発揮されることに期待していきたい。

（担当：桜井）



移って3年目、一戸建ての一室を事務所使用

皆さんヘルプラインと聞いてなにを思い浮かびますか、スペイン語ではlinea de ayuda日本語ではどんな風に訳しましょうか、「人を手伝うための手段」と私は訳します。直訳では正しくないことを十分に解っています。

ペルー日系人家系に生まれた私ですが、日本とは“異星”に近いということは来日して初めて理解できました。来日して22年ですが、困ったことなんて言い出したらきっと本を3冊書くことができるのではないかと思います。では、“手伝う”とは何でしょうか、私にとっては深く暗い底なし沼に入っていきイメージでした。ところが長年に渡り自分を悩ませてきた問題を相談や助けを求めることで状況を変えて切り開くこともできるのだと実感したことがあります。「自分の悩み、自分のことは誰もわかってはくれない、このまま黙っていた方が簡単」とそんな理由から、自分の自由や権利さえも勝手な思い込みで犠牲にしてきた最中に色々な人たちからの助けを得て、今は日本で自由に生活をする事ができています。あの時に“ヘルプ”と叫ばなければと思うと、本当に

エッセイ
NGOの
散歩道
第26回

LINEA DE AYUDA
人を手伝うための手段

今の私がいません。

私の話は極端で複雑ですが、助け(=ayuda)を求めている人は少ないのでしょうか。決してこれは国籍が違うから年齢が違うからといって困りごとがないとは言いきれません。人は誰もが一つや二つ悩みや困っていることがあるはずで、皆さんにはどう映るのでしょうか、助けてもらったので、私にもできることがあるのではないかと思い、現在では外国人ヘルプライン東海で手伝う機会を与えられています。不慣れ、正に多方面での知識が少ない私ですが回りの方に今でも“ヘルプ”してもらいながら歩んでいる次第です。

このように記事をも掲載する事ができるのも何一つ自分で日本語を自分の力でできるようになったのではないです。来日してから日本語を教えてくれた、たくさんの方のお蔭でもあります。微力ながらも今は、いつかたくさんの方の“ヘルプ”の役に立てればと思って活動しています。

外国人ヘルプライン東海 稲嶺 ホルヘ
ボランティアスタッフ

NGO
ノウハウ集

第30回 国連機関や外国政府の
統計を見てみよう

NGOで活動しているとその国の統計数値を知りたいことがある。また助成金の申請書や報告書に統計数値が書いてあると締まってみえる。今はウィキペディアで簡単にわかるのだが、ちょっとその出典をさかのぼってはどうか。日本の総務省統計局のホームページには、国連や国際機関(WHO、ILOとか)の統計へのリンク集があって、そこから簡単に元となる統計をチェックすることができる。

<http://www.stat.go.jp/data/sekai/e1.htm>

当然英語ばかりだか、表やグラフ中心なので専門用語を少し覚えるだけでなんとかなる。国際機関ってお堅いイメージがあるけど意外にデザインに凝っていたりするし、エクセルでダウンロードできるものも多いので活用しやすい。あなたの関わっている国がタイならば、乳

幼児死亡率や発電別電力構成とかを周辺のベトナムやマレーシアと比べてみてもいいし、これらの時系列や相関を調べてもいい。

さらに深く調べたい場合は、外国政府の統計局のホームページもチェックしてみよう。これも日本の総務省統計局にリンク集があって、115ヶ国の統計局にリンクしている。現地語版以外にも英語版もある国が意外に多い。
<http://www.stat.go.jp/info/link/5.htm>

自分たちの支援している地域が、隣の地域とどう違うのか？首都との違いは？など、見えてくることも多いはずだ。

(担当:丹羽)



なんじく りこめんず
NANGOC RECOMMENDS



※「NANGOC」とはNAgoya NGO Centerの略です。



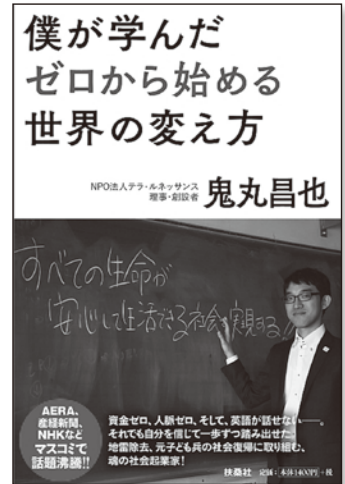
**僕が学んだ
 ゼロから始める世界の変え方**

鬼丸昌也 著



大手旅行代理店でもスタディツアーが組まれるようになり、多くの日本人が発展途上国の悲惨な現実を目の当たりにするようになったかもしれません。しかし、自分には何が出来るかを突き詰めて実際にアクションを起こした人の数はどうでしょうか。この本の著者鬼丸昌也氏は、カンボジアでの地雷被害を知ったその年に、その実態を90ヶ所以上の講演で人々に伝え、そして大学4年時に「NPO法人テラ・ルネッサンス」を一人で立ち上げました。

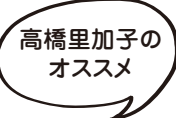
なかなか動き出せないというあなたへ。もしこの「すべての生命が安心して生活できる社会の実現をめざす」というテラ・ルネッサンスの志に心動かされるのであれば、この本を手にとって世界を変えるための一歩を始めてみるのも良いかもしれません。



1,512円
 扶桑社 2014年



CONNETTA (コネッタ)



地下鉄庄内通駅から徒歩7分のカフェが併設した雑貨屋さん。フェアトレード商品や国産商品のうち、環境や自然に寄り添ったものばかりがたくさん並んでいます。コーヒーや調味料などの食品や食器、手作りのアクセサリなど、様々なものがありますが、特に品揃えが多いのが本や石鹸、そして衣類。欲しかったものが見つかるかもしれません。エコということで、オシャレな自転車まで販売されています。

私がお店を訪ねたときに紹介していただいたのは、マヤナッツのコーヒー風パウダー。マヤナッツは中米グアテマラの森に自生する「ラモン」の木の実はです。ミネラル、アミノ酸、食物繊維が豊富で栄養価が高い、ノンカフェインのスーパーフードです。その場しのぎの生活のために燃やされていくマヤの森を守るために、グアテマラの女性たちが収穫、焙煎したものが輸入販売され始めました。香ばしく飲みやすい味に編集委員も大絶賛。

併設のカフェではマヤナッツオレやこだわりのコーヒーなどのドリンクがお手頃な価格でいただけます。



[マヤナッツ]
 マヤナッツコーヒー風
 100g 1,000円

[コネッタ]
 〒451-0071 名古屋市西区鳥見町3-22-1 2F TEL 052-523-6177
 OPEN/10:00~19:00 CLOSE/水曜日 <http://www.connetta.jp/>



このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。
 NGOに関するあらゆる「おすすめもの」情報をおよせください。e-mail:info@nangoc.org



共謀罪とNGO

名古屋NGOセンター政策提言委員 八木 巖

犯罪の合意を処罰する「共謀罪」の趣旨を含む改正組織犯罪処罰法(以下、共謀罪)が今年6月15日に参議院で可決・成立し、7月11日に施行されました。成立後も、この法律がNGO/NPOなどの市民セクターの活動をさまたげたり、委縮させるのではないかと懸念が、多くのNGO団体から表明されています。

金田勝年前法相は、5月29日参議院の審議で、以前の発言で「自然環境や景観の保護を主張する団体は目的が正当と考えられ、重大な犯罪を実行することにあるとは考えられず、座り込みを計画しても処罰の対象にならない」としていました。ところが、「対外的には環境保護や人権保護を標榜(ひょうぼう)していても、それが隠れみので、結びつきの基本的な目的が重大な犯罪を実行することにある

団体と認められる場合は処罰される」と変更しました。環境保護、人権保護、景観の保護をかかげるNGO/NPOは共謀罪の対象になるということです。「隠れみのかどうか」「組織的犯罪集団」かどうかは捜査機関の判断です。

共謀罪では、「組織的犯罪集団」が対象となっている犯罪を「計画」し、「準備行為」を行えば、罪に問うということになります。対象犯罪は277の罪名があげられています。しかし、国連人権理事会のカナタチ氏も指摘したように「明らかにテロリズムや組織犯罪とは無関係な過度に広範な犯罪を含んでいる」のです。それは何のためでしょう?NGOとしての視点からの

疑問も提出されています。共謀罪の対象犯罪を個別に見ると、種苗法の育成者権侵害というものがあります。いくつかの環境NGOがこのことを疑問視しています。育成者=種の開発をするグローバル企業などを保護するための共謀罪ではないのか?という指摘です。著作権保護、特許法、実用新案法、意匠法などもテロとは直接関係ないように思われます。違法CDを売ってテロ資金にする、などの説明がされ

張をしてきました。紛争地では軍事行動に異議を唱え、住民の生命・人権を守るため銃口の前に立つこともありました。また、企業進出が現地に引き起こす環境破壊、人権侵害を専門的に調査し、開発計画を中止するよう住民とともに訴えるなどの活動もしています。こうした活動は現地の政権から「テロリストへの支援」とされることもあります。共謀罪は、NGOのこのような活動を恣意的に解釈して、組織犯罪

として処罰することを可能としました。しかし、そのことを恐れ、過度に委縮するようなことがあってはいけないと思います。共謀罪は成立・施行されましたが、NGO団体が共謀罪の対象になるような事態に備えて、私たちは情報を共有し、学習し、法的な対応をふくめて、お互いを支え合う体制をつくる必要があります。自分たちには関係ないと思われる団体もあるでしょう。しかし、私たちがめざす

のは自由で活発な市民活動による、風通しの良い社会の実現です。物を言う自由は守らなければなりません。NGOはなによりも「非政府=中立」を大切にしなければなりません。NGOがNGOであるための大前提です。



共謀罪に関する勉強会を開催

ましたが、よく考えてみなければなりません。医薬品の特許権のために貧困層に医薬品が届かないという問題があります。共謀罪対象の罪名リストは不可解なものが多いのです。そのなかにはNGO活動にも密接に関わってくると思われるものが数多くあります。国会においてそれらの詳細な検討がなされたとは思えません。審議不十分です。

多くのNGOは、たとえ政府の方針に批判的な主張になったとしても、中立性と専門性を大切にしながら、政策提言を行い、平和、環境、人権をかかげて活動してきました。時には国連などの国際組織や政府、そして多国籍企業にたいして批判的な主

名古屋NGOセンターも構成団体である「秘密保護法NGOアクションネットワーク」が「組織犯罪処罰法改正案を憂慮する国際協力NGO声明」を発表しました。

声明は、

<http://nangoc.org/information/post-19.php> よりご覧頂けます。

人材・活動育成

Nたま15期 始まりました!

7月29日、ウィルあいちでNたま(NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ)15期生の入学式が行われました。途上国の教育、貧困、環境問題、原発、地域活性化など、様々な分野に関心を持つ11名(男性6名、女性5名)が集まりました。また15期生は、例年に比べ学生さんが多いのも特徴です(11名中5名)。

入学式当日の午前中には、理事の竹内ゆみ子さんにより、Nたま研修を受ける上での心構えについてのお話があり、午後には守屋保美さんを講師にお招きして「コミュニケーション」について考えるオリエンテーション講座を実施しました。また8月3日の夜には、名古屋NGOセンターの歴史や仕組み、現状についての講義が、8月6日の午前には目標づくり、午後には神田浩史さんによる「印象操作」「ものの見方」をテーマにした講義を実施しました。そして8月20日には、毎年恒例の池住義憲さんによる「生き方」を問う熱い講義が行われ、15期生がここから本格化するNたま生活に向け自身の想いを再確認する様子が印象的でした。



池住さんの講義にて、ホワイトボードに書かれた「生き方」の文字。

Nたまに関わってくださっているすべての皆様へ、今年も無事にNたまを開催できますこと、深く感謝を申し上げます。今後ともどうぞ応援よろしくお願いします!

(報告: インターン 西川)

新加盟NGO紹介

マゴソスクールを支える会

当会の支援するマゴソスクールは、1999年にケニア・ナイロビのキベラスラムで、スラム住民のリリアンが長屋の一室に孤児を集めて寺子屋を始め、その後ケニアに住む早川千晶と二人三脚で孤児・貧困者の救済所とし発展させてきました。どん底の子どもたちが教育、給食、居場所を得て、笑顔を取り戻し、夢を追う奇跡の姿を見届けてきました。

2008年には高校進学を希望する生徒に奨学金制度を、14年には障がい児のための特別学級を、また孤児のための寄宿舎を2005年から東海岸の村で運営しています。学校運営に伴い、OBやOG、保護者、近隣住民の職業訓練、雇用の創出にも寄与しています。



マゴソスクールに通う生徒たち

- 住所: 〒511-0044 三重県桑名市大字萱町54-1
- TEL: 080-6945-5637
- E-MAIL: info@magoso.jp
- ホームページアドレス: <http://magoso.jp>
- 代表者: 大城研司 ●連絡担当者: 松岡英輝
- 対象国: ケニア

- 活動分野: 教育支援、職業訓練、食料援助、貧困対策
- 年間予算: 400,000円
- 開館時間: 10時~18時(休館日: 毎週火曜、年末年始)
- 活動内容:

ケニア・ナイロビのキベラスラムで、20人の孤児の救済所としてスタートしたマゴソスクールは現在では500名を超える規模となりました。このマゴソスクールを組織的に物心両面から支えていくための活動を行っています。

- 関わり方:
 - マゴソスクールの運営を支援するため会員制度を作り、広くサポーターを募集しています。
 - マゴソの作業所で作成した手作りアフリカングッズを購入し、販売しています。
 - 日本全国でアフリカトーク&ライブを毎年開催し、同時にケニアスタディーツアーを企画、広く参加者を募集しています。

活動報告カレンダー

2017年3月1日~7月31日

●ネットワークング

- ・「企業とNGOの連携促進のための勉強会」開催 第1回(3/8)、第2回(6/14)
- ・横のつながりをつくる勉強会「フィリピン人の日本への出稼ぎ小史」(4/15)、「東ティモールの植林事業と日本のNGO」(5/28)
- ・「連合メーデー」ブース出展(4/22)
- ・「国際チャリティフェスティバル2017(ウオーカソン)」ブース出展(5/21)
- ・「市民の伊勢志摩サミット~1周年記念イベント~」協力(5/21)

・「NGOスタディツアー合同説明会」開催(6/3)

●コンサルティング

- ・NGO相談(外務省NGO相談員):【3月92件】【4月90件】【5月91件】【6月102件】【7月82件】
- ・第1回外務省NGO相談員 連絡会議 出席(6/22-23@東京)
- ・外務省NGO相談員 出張相談:「国際チャリティフェスティバル2017(ウオーカソン)」(5/21)、「第5回ばらマッチ!なごや」(6/24)、「JICA中部国際協力推進員会議」(6/30)

●情報収集・発信

・会報『さんぐりあ』5月号発行(1,000部)・発送(4/21~22)

情報発信		3月	4月	5月	6月	7月
ホームページ	更新回数	2	17	0	3	4
	ビジット数	22,836	22,341	25,559	24,799	23,350
facebook (フォロワー数1,026人)	更新回数	13	17	29	29	24
メルマガ (登録数290人)	配信回数	13	9	14	16	9

新役員紹介

2017年5月20日の定時総会で以下の3名が新役員に就任しました。どうぞよろしくお祈りします。

理事 にわ てるあき
丹羽 輝明さん (賛助会員)

『さんぐりあ』の経験を活かして

初めて国際協力に関わったのはスリランカの地域開発のNGO。「さんぐりあ」に関わったのは2003年の53号からでした。以来、会報編集委員として、2009年からは会報編集委員長としてこのさんぐりあを60号以上作ってきたなかで、多くの方のお話をうかがったのが私の財産です。単に一般市民の方に伝えるだけでなく、NGOの実務者が読んで役に立つ情報を発信してきました。

今後は理事としても名古屋NGOセンターの発展に寄与していきたいと思っています。



理事 よしかわ のりこ
吉川 典子さん (賛助会員)

NGO活動の活性化に貢献していけたら

国際協力に憧れて暗中模索していた大学時代。思い切って様々なNGO団体を訪問して、活動に参加する中で“熱い思い”が生まれ、国際協力の道に進みました。そして、開発援助の仕事を経て、今に至っています。名古屋NGOセンターに出会ったのは、2008年にJICAの市民参加調整員をしていた時です。国際協力カレッジや広報研修などを一緒に作っていく中から、NGOが連携して共に学びあう意義や、組織能力強化を行うことによって生まれる様々な効果に感動で心を震わせる日々を送りました。今後、市民やNGOが真摯に取り組んでいる地球的課題の解決に向けた活動がより活性化するために、少しでも貢献していけたらと思っています。



監事 よこやま のりこ
横山 紀子さん (バングラデシュの人々を支える会 代表)

研修での学びを実践に

名古屋NGOセンターの一員として、監事の使命と責任を全うすべく、努力していきたいと思えます。どうぞよろしくお祈りいたします。以前受講しました広報研修での学びは多岐に渡りました。現在関わっている海外支援活動と地域の市民活動の場で、その学びが有効に役立っています。このような貴重な研修をぜひ多くの方に受講していただくことをお勧めいたします。名古屋NGOセンターは、市民活動の中核の位置付けとして、活動する者の学びの場であり、また人々との繋がりの中の拠点として、今後の発展を願っております。



※再任役員は以下の13名です。

【理事長】西井和裕 【副理事長】伊藤幸慶、八木巖 【常務理事・事務局長】戸村京子
【理事】浅野陽子、市川隆之、小池康弘、龍田成人、竹内ゆみ子、中島隆宏、市野将行、松浦史典
【監事】倉地茂雄

※以下の4名は退任しました。地域NGOのためにご尽力頂き、本当にありがとうございました。

【理事】北奥順子、滝栄一、山崎真由美
【監事】赤羽一郎

●政策提言

- ・外務省定期協議会 連携推進委員会とODA政策協議会 合同会議へ出席(5/9@スカイプ)
- ・NGO・外務省定期協議会 全体会議へ出席(6/6@東京)
- ・NGO・外務省定期協議会 連携推進委員会(6/29@東京)の事前協議に参加
- ・NGO・JICA協議会へ出席(7/4@東京)
- ・NGO・外務省定期協議会 ODA政策協議会へ出席(7/11@東京)
- ・「NGOとJICAのよりよい連携を考えるワークショップ」開催(5/18)

ブ」開催(5/18)

- ・勉強会「NGO活動と共謀罪」開催(5/31)
- ・秘密保護法NGO アクションネットワークのメンバーとして「組織犯罪処罰法改正案を憂慮する国際協力NGO声明」を発表。

●国際理解・開発教育

- ・「会議ファンリテーション講座」開催(4/23)

●人材・活動育成

- ・「NGOスタッフになりたい人ためのコミュニティ・カレッジ」説明会(6/21、25、28、7/1、15、18)

&実施(Nたま11名、7/29)

●運営

- ・総会(5/20)
- ・理事会(4/15、5/20、30、6/20、7/4、18、25)
- ・常任理事会(3/8、21、31、4/12、5/12)
- ・職員会議(3/28、4/25、5/23、6/27、7/18)
- ・東海ろうきん「NPO育成助成」組織診断フェーズ(5/20、6/10、7/8)出席

ムラのミライ

ムラのミライはムラ＝地域・コミュニティの人たちが、自分たちのミライ＝これからの暮らしをより良くしていこうと動き出していくお手伝いであれば、どこでも・何でもやります、という団体です。海外だけでなく日本でも、アジアだけでなくアフリカや中東でも活動していますし、教育・環境・災害など何かのテーマに特化しているわけでもありません。

一見「いろんな場所で、いろんなことをしている団体」なのですが、一つだけ「こだわり」があります。それはメタファシリテーション(対話型ファシリテーション)という活動手法です。村人に質問を投げかけるだけ、というシンプルなもの。対話によって、コミュニティが持つ経験や知識を引き出していきます。このやり方が、「〇〇が足りないから〇〇できない」「〇〇が必要」という地域住民の思い込みをひっくり返し、本気で課題解決に向かわせる力を持つ手法として注目されるようになりました。今では、書籍や研修を通じて広まり、国内外に実践者を増やしつつあります。

そもそもムラのミライは1993年の設立当初、「インド山村部の貧困層を助け

よう」と、識字教室や収入向上活動など、「ない」ものを支援することから始めました。しかし、活動目的に掲げた「自立支援」と、活動現場で起こっている「援助劇場」＝支援しようと村に入ったNGOが課題と解決策をセットで持ち込む構図とのギャップに気づいて悩みます。様々な試行錯誤を繰り返したのち、援助劇場から脱出する方法として確立したのがメタファシリテーションでした。

その手法とはどんなものなのか?活動地で、実際にどんな対話がなされ、どんな結果を生んでいるのか?関心を持たれた方は、ムラのミライのHPやブログをご覧ください。

今年、長らく本部であった飛騨高山のオフィスを閉じ、日本での活動拠点を下記の関西オフィスに一元化しました。事務的な拠点は関西に集約しましたが、高山や名古屋はもとより、北海道から沖縄まで、日本各地での人材育成やフィールド活動は今後もますます力を入れて深めていきます。どうぞご参加ください!



フィールドワーク入門ツアー(インド)

(専務理事 宮下和佳)

認定特定非営利活動法人
ムラのミライ

〒662-0856 兵庫県西宮市城ヶ堀町2-22 早川総合ビル3F
TEL&FAX:0798-31-7940 (9:00~17:00 月曜~土曜、日祝休)
E-mail: info@muranomirai.org HP <http://muranomirai.org/>

アムネスティわやグループ

アムネスティ・インターナショナル日本に所属している「アムネスティわやグループ」は、1990年に第109グループとして名古屋の第15グループから分離して有志が立ち上げた。現在はオーストラリア人やビルマ人の会員も含め、毎月第四土曜日の2時からナディア・パークの6階の名古屋市市民活動推進センターで例会を行っている。

アムネスティは世界的な人権NGOとして各国に支部があり、「良心の囚人」と呼ばれる人権侵害の被害者たちの釈放を求めて手紙書きをしている。日本支部の活動のひとつとしてスピーキング・ツアーを行い、海外での人権侵害の現状を訴えている。昨年はロヒンギャ難民問題に取り組んでいるマレーシアのリアン・ファンさんが講演を行った。

今年は11月5日(日)午後1時にナディア・パーク6階の市民活動推進センター集会室で行われる。講

演者は中国の盲目の人権活動家・陳光誠さんだ。彼は当時の一人っ子政策のために、強制的に墮胎させられようとしていた多くの女性を支援して、中国政府に2006年に逮捕された。釈放後も自宅軟禁状態にあったが、2012年にアメリカに亡命し現在に至っている。

会員のビルマ人ココラットさんは、日本で政治難民と認定された数少ない中の一人だ。1988年以降の民主化運動の時に学生リーダーだった彼は国外逃亡を余儀なくされた。ココラットさんはタイ国境付近のメラウーのビルマ人難民キャンプへ長年にわたって教育支援している。



11月に講演予定の陳光誠氏

AMNESTY
INTERNATIONAL



(内藤裕子)

アムネスティ・インターナショナル
日本109G「わや」

〒458-0015 名古屋市長区篠の風 2-189 ライオンズマンション篠の風102 久富方
TEL&FAX: 052-878-2877 E-mail: shigeo@mx4.mesh.ne.jp
HP <http://www.amnesty.or.jp/>

キャンヘルプタイランド

キャンヘルプタイランドは、「東南アジアの貧しい子どもたち」のために活動するボランティア団体です。1990年の設立以来、タイの貧困地域に住む子どもたちの支援を中心に、皆様からのご寄付や助成金を原資にして、名古屋を拠点に、無給ボランティアスタッフだけで細く長く活動を続けています。

主な活動内容は、タイの東北部や北部で ①奨学金支援、②建設支援(校舎・図書館・食堂・トイレ・学生寮など)、③図書支援(学校図書館へ本の寄贈)、④タイ山岳部に住む民族の子どもたちの学生寮「カサロンの家」支援などですが、2016年よりカンボジア王国バタンバン州にて、小学校へのトイレ建設支援も開始しました。

海外での事業は、主に①奨学金を直接子どもたちへ手渡しに行く奨学金授与式ツアー、②現地の学校へ行き図書館やトイレなどの建設作業を手伝うワークキャンプ、③タイの「カサロンの

家」を訪ねるスタディーツアー、④学校図書館へ本を送る図書支援などを行っています。

国内での事業は、①概ね月1回のスタッフ運営会議、②ワールドコラボフェスティバルなどのイベント参加、③奨学生のデータや子どもたちから届いた手紙などを翻訳し支援者様へ発送する翻訳会(毎年8月～10月)、④年4回のニュースレター発行、⑤タイの子どもたちが制作した創作絵本を日本国内で開催される絵本コンクールへ出品、⑥奨学生へクリスマスカードを発送などを行っています。

当会では、ボランティアを随時募集していますので、ご興味のある方は事務局までご連絡ください。また皆様からのご寄付も随時受け付けております。年会費3,000円で会員になっていただくと年4回のニュースレターを事務局よりお送りいたします。



東南アジアの貧しい子どもたちに笑顔を……

(理事 坂茂樹)

特定非営利活動法人
キャンヘルプタイランド

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2-11-43 日商ビル2階 NPOステーション内
TEL&FAX: 052-566-5131 E-mail:office@canhelp.jp HP: http://canhelp.jp

NIED・国際理解教育センター

1997年に設立された当団体は、2003年の法人化を経て今年で20周年を迎えました。正会員は、法人化時14名から新メンバーが徐々に増え、現在は40名を超えました。また、人権・環境・平和を取り巻く社会や教育の状況も変化してきています。そのため、団体の旗印を会員参加型で改めて次のとおり構築し、様々な活動を始めています。この旗印に共感する方は、ぜひ一緒に！

<ビジョン> よりよい未来を、子どももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

<ミッション> ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

- ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。
- ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。

- ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。
- ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

- ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

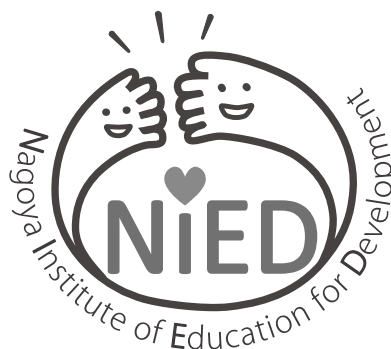
<バリュー>

(大切にする価値観・こだわり所)

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。

【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。



ハートは「わたし・心・愛・自尊感情を、両手は「あなたとの対話」を、全体の輪は「よりよい未来を共に創るみんなの参加・協力」を表現しています。

(事務局長 川合眞二)

特定非営利活動法人
NIED・国際理解教育センター

〒464-0032 名古屋市千種区猫洞通5-21-2ライフピア本山3階
TEL:070-5333-5566 E-mail:nied@love-hug.net HP:http://nied.love-hug.net/

会員・寄付者、協力者の紹介

(順不同・敬称略)

2017年3月1日～7月31日

●賛助会員(個人)

【更新】：渡邊亜希子、山岡要子、藤井典夫、久野博司、齊藤尚文、丹羽輝明、柿野菜美江、松尾朋之、近藤公彦、吉田英一、加藤克也、福島真実、池住義憲、名嶋聡郎、藤村昭子、和田益雄、小池康弘、蒲池卓巳、山田隆平、水野洋計、福田正博、高木雅成、西口のぞみ、中島正人、石井りか、加藤久美子、前田直人、西井和裕、岡田雅宏、株根秀之、山崎真由美、市川隆之、塚田涼子、園部吉規、響田容子、今井田正一、松本恭一、吉川典子
【新規会員】：清水光子、中野祐紀、高田信英、林康仁

●寄付者(物品なども含みます)

和田信明、伊佐治あゆみ、株式会社シーテック、高野葉、堀江愛里、北医療生活協同組合北病院組合有志、平尾秀夫、宝泉寺、(株)でらなんなん、(特活)イカオ・アコ、秋田正巳、伊藤武士、宇野菊夫、大島京子、大野博人、小椋愛、後藤文昭、酒井俊輝、目加田貴弘、山田志帆、久保光雄、戸村京子、岡谷鋼機(株)、西井和裕、佐島恭子、連合愛知、乗浩子、ヤマダヤ(街)、NPO法人ACHAN JAPAN、欽井宣人、遠藤卓良、佐藤都喜子、筒井広治、加藤美紅、横山紀子、高木雅成、林 滋、松本恭一、福田美津枝、山崎真由美、ステファニ記念・東ティモール子ども募金

●グッドウ:8,766円/アマゾン・ヤフー:1,922円/

楽天:258ポイント

●115号(2017年4月号)会報発送の協力者

山崎真由美、岩尾憲治、ヒロさん、まーくん、丹羽輝明、加藤里紗

みなさまのご理解・ご協力により感謝申し上げます



会員からのメッセージ

●清水 淳～体制にモノを言っていくと、孤立に追い込まれることがあります。それが今頃、厳しさを増しているように感じます。けれども内容によっては引き下がれないこともあります(結果がどうあれ)。そんなとき、どこかつながっていると踏ん張れるような気がします。NGO活動を継続されている諸団体に敬意を表します。

事務局だよ!

●堀川絵美～今回の会報発行日は9月22日。前日21日は、国際平和デー「世界の停戦と非暴力の日」です。365日全てが停戦と非暴力になるよう、私達にできることを考えていきたいです。

編集後記

●桜井裕子～年4回発行していた「さんぐりあ」だが、今年から年3回となる。表紙で説明されているように、さんぐりあに漬け込む果実はさまざまな個性を持った加盟団体にたとえるならば、赤ワインにあたるのが、私たち編集委員やNGO職員であろうか。編集ボランティアを始めて1年以上経った。私を含め、新しく加わった3人のメンバーも少しずつ慣れてきて、熟したワインになったのならば、おいしい「さんぐりあ」を読み手に提供できるだろう。年の発行回数が減った分、濃い編集会議の時間となり、それぞれの情報で皆楽しく盛り上がる。

名古屋駅南に新しいまち「ささしまライブ」誕生
Diversity town "Sasashima Live" debuts in the South end of Nagoya Station

ささしまライブ まちびらき
GLOBAL DAYS 2017
世界を感じる2日間 10.7 SAT ~ 8 SUN

なごや地球ひろばでも盛りだくさんの企画を準備中。是非お越しください!

リニューアル記念! 「体験ゾーンツアーに参加」が「民族衣装体験をSNSに投稿」してプレゼントをもらおう!	「カフェクロスロード」でタイ料理フェア開催! タイの大ヒット映画「すれちがいのダイアリー」も上映。	開発途上国のイメージを日本の伝統文化である着物に彩った KIMONO プロジェクトの展示&トークショー
---	---	---

★JICAボランティア 2017年度秋募集★

募集期間 9/29(金) - 11/1(水) 正午 いくつか 世界を変える力になる。

体験談&説明会 会場: JICA中部なごや地球ひろば

10/15(日) シニア 10:30~12:30 青年 14:00~16:00	10/18(水) シニア・青年 19:00~21:00	10/22(日) シニア 10:30~12:30 青年 14:00~16:00
---	-----------------------------------	---

無料/予約不要/入退場自由 その他複数会場で実施します。詳細はウェブで!

JICA中部
なごや地球ひろば

【開催時間】10:00~18:00
【休 日】月曜日・国民の祝日・年末年始
【住 所】愛知県名古屋市中村区平池町4丁目60-7
【TEL】052-533-0121【FAX】052-564-3751
http://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/
●名古屋駅から徒歩13分 ●ささしまライブから徒歩5分 ●駅前から徒歩10分

カフェ貸切 受付中 少人数のセミナー、ワークショップ等のイベントでご利用いただけます

美味しいケーキと飲物付き
20名/13,600円(税別)~
15時~18時の内2時間
プロジェクト、Wifiあり
※最大30名 ※詳しくは電話にて

名古屋駅太閤通口から徒歩5分
(新幹線改札側)

名古屋市中村区則武 1-21-3
11:00 ~ 23:00 (LOは 22:00) 月曜定休
☎ 052-446-6694 (お電話でご予約承ります。)
グローバルカフェ

フェアトレード雑貨&コーヒービーンズショップ
フェアビーンズ なごや地球ひろば店

今秋、なごや地球ひろばの展示エリアがリニューアルします!それに伴い、フェアビーンズもちょっぴり内装が変わっています。どんな風変わったかは、来てみてのお楽しみ。話題のショッピングモールも、ささしまライブエリアにオープンしますよ。新しくなったフェアビーンズに、是非遊びに来てくださいね。お待ちしております!

名古屋駅から南へ徒歩10分 JICA中部1F なごや地球ひろば内
営業時間:10:00~17:00(火~金)、10:00~17:30(土・日)
定休日:月曜日・祝日 TEL:052-583-6480
フェアビーンズコーヒーオンラインショップ http://fairbeanscoffee.net/

発行:認定特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
編集責任者:丹羽輝明
会報編集委員:市川隆之、貝谷京子、加藤里紗、桜井裕子、高橋里加子、内藤裕子、堀江愛里、村山佳江
協力者:廣井修平
レイアウト:久由紀枝
発行日:2017年9月22日
印刷:山本印刷有限公司

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
(認定NPO法人)
〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL&FAX:052-228-8109 URL:http://www.nangoc.org
E-Mail(代表):info@nangoc.org